

令和4年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



10月号

皆さんはユニバーサルデザインをご存じでしょうか。今回も、漫画『ヤンキー君と白杖ガール』（著者：うおやま）から紹介していきたいと思います。

漫画の中で弱視のユキコは、アルバイト先のハンバーガー店で調理の仕事を任せられます。しかし、見えづらいためにパンの大きさが分からなかったり、熱いトースターに直接触れてやけどをしてしまったりと苦戦します。

ユキコはみんなと同じように働くために店長に要望を伝えます。メニューや商品かごにつける名札を大きく表示してもらったり、耐熱手袋の用意や床にテープで誘導ラインを引いてもらったりするなど働きやすいように工夫をすることで、弱視でも問題なく働くことができるようになりました。

このような工夫はユキコのために取り入れたものでしたが、それは誰にとってもわかりやすいものだったのです。それこそが「ユニバーサルデザイン」なのです。



ユニバーサルデザインって？

ユニバーサルデザイン（Universal Design）は、年齢、性別、国籍、文化の違いに関わらず、すべての人が利用しやすいようにつくられた建築・製品・情報などの設計のことです。頭文字をとって、「UD」と表現されることもあります。



バリアフリーとの違いは？

バリアフリーとは、高齢者や障害者などの一部の人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去する、という意味があります。それは、「障害があることを前提に、その障壁を後から取り除く」という考え方であり、初めからすべての人が利用しやすいようにデザインするユニバーサルデザインとは異なる意味を持ちます。

印刷物のユニバーサルデザインについて

弱視や色覚異常の方に対応した印刷物のユニバーサルデザインについて紹介します。

弱視の方に対する配慮

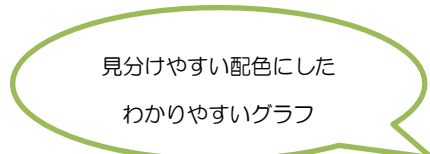
周囲の明るさや印刷物のコントラストによって見え方が異なります

- ① デザインを崩さないように大きな文字で作成する
- ② フォント（ゴシック体やUDフォントのような太さが均一のフォントを使う）
- ③ 適度な余白
- ④ 場合によっては拡大版も用意しておく

色覚異常の方に対する配慮

色覚異常の方は、赤～緑の波長域で色の差を感じにくいタイプが多く、赤も緑も茶色っぽく見えたり、濃い赤が黒に見えたりします。色覚異常と言われていなくても、弱視者の中には色の認識力が弱い人も多いです。そのため、印刷デザインをするときの注意点としては、以下のことが挙げられます。

- ① 重要箇所に赤を多用しない
- ② 見分けやすい配色にする
- ③ 色以外の情報も併記する



私たちの身の回りにおけるユニバーサルデザイン

私たちの身の回りにおけるユニバーサルデザインについて一例を紹介したいと思います。

- ① **シャンプーのポンプ** 上部に点が3つ付いており、視覚障害者でもさわっただけでシャンプーとリンスを区別できるように工夫されている。
- ② **センサー式蛇口** 手を近付ければセンサーが反応して水が出るので、握力の弱い人や視覚障害者など誰もが利用することができる。
- ③ **ピクトグラム** 誰にでも情報を伝えられるように簡略化された視覚デザイン。

